

平成24年10月21日（日）、長久手市役所西庁舎研修室において、全国各地の地域活性化・地域づくり活動に関わっている山崎亮さん（studio-L 代表／京都造形芸術大学教授）を講師に迎え、～みんなで描く「まちのデザイン」地域づくり講演会～が開催されました。

講演会で山崎さんは、総合計画策定に携わった人口 2,300 人の島根県海士（あま）町の事例を紹介。最初に「“2,300 人の人口規模のまちだからできるよね～”ではなく、一つの校区、一つの自治会と置き換えて聞いてください」と話されたことで、とても身近な話として興味深く伺うことができました。また、「行政にやってもらう時代は、終わったんだ」という言葉もあり、今、長久手市が取り組んでいることに通じるお話しでもありました。

山崎さんの講演に先立ち行った市長あいさつを紹介します。

みなさん、おはようございます。

今日はようこそいらっしゃいました。

長久手は、先人の努力によって、ありとあらゆるものが揃っており、急いでどうにかしなくてはならないこと、本当に困ったことはありません。だから時間がかかっても良いので、行政に代わって市民が役割を担えるまちに変えていきたい、今こそその仕組みを切り替える時期だと思っています。



そのためには、役所も情報をすべて出し、市民と一緒に考えられるようにしなくてはなりません。市民も「リニモが赤字だ」「温泉が赤字だ」などと批評家になるのではなく、当事者となり役所と一緒に、長久手の方言で育てることを「しとねる」と言いますが、ぜひ長久手のまちを「しとねて」（育てて）いただきたい。

そのためモデル的な取り組みが、地域共生ステーションであり、今、意見や考えの違うみなさんが集まり、使い方、運営の仕方を話し合ってもらっています。当然、時間もかかるでしょうが、豊かさ（余裕）のある今だからこそ取り組むことができると思います。

役所には、総合計画というものがあります。住民のみなさんは知らない方が多いと思いますが、実は役所の職員は、この総合計画をもとに動いています。これから地域福祉計画や自治基本条例を作ろうとしていますが、住民のみなさんと一緒に作っていくことが大切だと考えています。では、それらをどうやって作っていくのか？ 意見の異なる人が一緒に作るということは、大変なことです。これまで50年かけてできた仕組みをすぐに変えることは難しいと思うが、遠回りをして良いので、長い時間をかけて取り組んでいきたい。長久手では、今、その

練習をしているんだと思います。職員はもちろん、住民のみなさんも、子どもや孫の未来のために一緒に悩み、一緒に苦労して欲しい。

長久手が変われば日本も変わると思います。長久手の面積約20km²、人口5万人というのは、モデル地区的に取り組むにはちょうど手ごろです。本日の講師である山崎様は、長久手に大変ゆかりのある方で、現在、全国のまちづくりを応援して見える。ぜひ、ふるさとである長久手市も応援していただきたいをお願いをしたところです。本日はどうぞよろしく申し上げます。



←講演会終了後、参加者で交流会が行われました。